

花いっぱい運動

安全安心生活部会長

杉崎 房子

平成二十一年に千歳町安全安心のまちづくり推進会議が発足し、安全安心生活部会で「千歳町を花いっぱいのまちにしよう。」と平成二十二年から毎年花植え活動に取り組んでいます。今年も十一月一日を中心に各区で花植えを行って頂きました。活動を始めて十二年が経ち、今年は、ピオラ苗六十鉢、土が七袋に加え、新たに大きなプランター一個、小さなプランター二個、ジョウロ二個を各区に配布しました。今、自治会館が耐震工事で改修中ですが駐車場や二階入り口に、生活部員によって植えられたプランターを置きました。

区民の皆様のご協力のもと、プランターに植えられた色とりどりのかわいいピオラが、千歳町の道端を行き来する人達の人を楽しませてくれたり、心を和ませてくれたりしています。寒さを乗り越え春にはきつとたくさんの花を咲かせ

る事と思えます。水やり作業も大変ですがよろしくお願ひします。花は、人々



の目を楽しませ心を癒してくれます。皆さまのご家庭を含め千歳町がこれからも花いっぱいのまちになっていくといいですね。

小口区環境美化活動

小口区長 安藤 茂樹

十一月二十二日の日曜日、午前八時から小口区青少年健全育成協議会委員さんの声かけで、恒例となっている「環境美化運動(空き缶拾い)」が実施されました。

それまで比較的暖かい日が続いていましたが、当日は霧が立ちこめる少々寒い日でした。大人ばかりでしたが、二十四名の参加を得て、バス停から二方向に分かれて草むらや溝を中心にゴミ拾いを行いました。

以前と比べると、この環境美化も二つの点で大きく変わってきました。一つは参加者です。他地域以上に小・中学生が減少してきて、今回は大人ばかりでした。昔は、子ども達が遊びながら競うようにゴミを拾っていた、後ろから大人が見守っていたものです。もう一つは、ゴミの量です。昔は軽トラに乗らないぐらいたくさん落ちていました。中には自動車のタイヤや布団までありました。今年、ゴミ袋三つにまとめることができるくらい少なくなっていました。ゴミの種類も空き缶と弁当の容器が大半でした。少しずつマナーが良くなっているとすれば嬉しいことです。

このまま、美しい自然と環境を次の世代に引き継いで行ければと思います。



コウノトリ飛来

出雲区 廣瀬 義直

稲刈りが終わり、秋が深まったある日、出雲区にある農業用ため池「八反田池」に、コウノトリが三羽飛来しました。

「八反田池」はこの時季、池の保全管理のために水が抜かれます。水抜きされた池には干潟ができ、小エビなど野鳥にとって格好のえさ場となるのです。

隣接する旭町の「上池」に数年前よりやって来ているコウノトリが、この「八反田池」を見つけ、遊びに来てくれたようです。

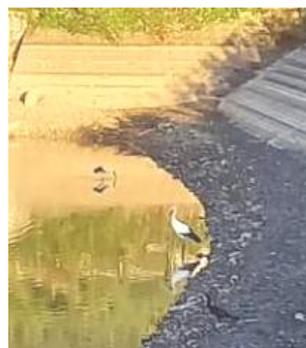
幸せを運ぶ鳥、コウノトリの飛来ニュースは、久しぶりの明るいニュースとしてたちまち地域中に伝わりました。コウノトリは、三日間続けて姿



を見せられました。その後、餌が少なくなっていたからでしょうか、コウノトリの偉容な姿は見られなくなりました。

ところが、十一月半ばになり町内の田んぼや鉄塔で、たびたび見かけるようになったのです。先日、小口区の岡本さんから「田耕してたらコウノトリが八羽もやってきた。」というお話も聞きました。

今年たまたまではなく「毎年秋になればコウノトリが飛来するふる里」そんな千歳でありたいと思っています。



写真提供 出雲台区 大西 均 様

戦後七十五年の節目に

千歳町遺族会長 廣瀬 春雄

間もなく令和二年が終わり、新しい年を迎えます。戦後七十五年の歳月が流れました。全国で三百万人の国民が犠牲になり、千歳町からも多くの若者が愛する家族と郷土を守るために、両親や妻、幼子を残して厳しい戦いの場へと赴き、多くの尊い命が散華しました。平均年齢二十代半ばの未来ある青年でした。

千歳町では、桜花の四月上旬に七谷川畔の英霊塔で、自治会主催の慰霊祭を執り行っていたが、他、遺族会班長を中心に各区英霊碑等において鎮魂の催しを続けています。

戦後生まれが全人口の八十五パーセントとなった現在、戦争の悲惨な記憶や、戦後生活の苦労について、その風化が進んでいます。

千歳町遺族会は、現在五十家族六十一柱のご英霊をお祀りし

・七谷川畔英霊塔の毎月の管理と掃除（各区順番に）

・各区の英霊碑の管理清掃

・毎月発行「日本遺族通信」、年一回の「京都遺族通信」の回覧

・亀岡市、京都府及び全国戦没者追悼式への参加（今年にはコロナ感染自粛の関係で会長、副会長の参列でした）

・京都護国神社への春・秋例大祭へのお参り（当番班長）

・特別慰霊金需給の相談と案内などの活動を行っています。現在の私達の豊かな暮らしが、ご英霊の尊い犠牲のうえにあることを忘れず、尊崇の思いと、戦争の惨禍、平和の大切さを、町民の皆様と共に、次の世代に伝えていかねばと念じています。

江島里農家組合の活動について

組合長 廣瀬 均

千歳町は、自然環境に恵まれ、地域の発展に皆さまが協力する素晴らしい町なのです。



我々の江島里農家組合は基幹産業であるビール大麦と丹波大納言の小豆を栽培しています。今までは収穫機械もなく、他町にお世話になっていました。この状態が長く続きますと、区民の皆様からもいろいろな声が上がります。そこで、平成二十八年より京力農場プランの認定に向け、京都府・亀岡市のご指導を仰ぎながら研修と打ち合わせを重ね着手しました。そこで我々は「江島里の農業を話し合う会」を発足させ、各年代層の方に委員になって頂き「江島里の農業一〇年プロジェクト」を立ち上げ、基本的な考えとして

- 一 農家組合が守ってきた共同精神を継続する。
- 二 自分の農地は、自らが守ることを基本とする。
- 三 高齢化や担い手不足等、継続が難しい

くなった農家が出た場合は、農家組合が可能な限り江島里の方に農地を預かってもらえるよう調整する。四 将来的には、農家組合が農地を預かることも視野に入れる。

こうした考え方で、未来に向かって対応し活動していくつもりです。

そして、令和二年三月三十一日付で亀岡市長より認定通知を頂きました。その後、施設建設を計画し、十一月二十三日に乾燥調製施設の完成に至りました。今後この施設を利用しながら、農家組合の運営に携わって行きたいと思っています。そして、私たちの世代だけでなく、若い世代が働きやすい環境を作ることが重要だと思っています。今後皆さまのご指導ご協力をお願いします。

ジャンボタニシ駆除講習会

千歳町営農組合長 平野 恒美

町民の皆様には日頃から何かとお世話になっており誠にありがとうございます。今年には新型コロナウイルスの発生により何もかもが以前とは違った生活になってしまい、困惑と不安の日々です。

さて、農産物の生産現場においては高齢化が進み、さらに獣害や病害、特に最近ではジャンボタニシによる被害など、環境は厳しいものとなっています。

このタニシは外来種で深水により活発に活動し、田植え直後の苗をゴッソ

り食べ、収量を大幅に減少させてしまいます。今年の農産物被害申請によりますと、被害面積は町内の三区で四百七十四アールに及び、申請の外にも被害があった模様です。

そこで今回、組合長会議を構成する皆さんで南丹農業改良普及センターから渋谷講師を招き、また亀岡市農林振興課からも佐藤係長に参席頂き総勢十五名での講習会を開催する事となりました。

短時間の講習ではありましたが、渋谷氏の熱意のこもった口調で具体的により細かな説明を頂き、講師による絶滅は厳しいとのことでしたが、講習の内容を各集落に持ち帰って頂いて徹底した対策をお願いしたところです。

